

## 文化遺産を観光資源に

大神 健 治

(会員 佐伯市上岡)

私は昭和十七年に上岡迫田の実家で生まれました。幼い頃は近くの今熊神社や愛宕神社などでよく遊びました。学生時代は特に郷土史に感心があつたわけではなく、ただ大神（おおが）の姓は珍しく何となく意識はしていました。実家に『梅牟礼記』らしき古文書があり、別府大学の教授が解読すると持ち帰ったこともありました。鶴城高校を卒業して就職、奈良県に三〇年ほど暮らしていました。奈良は古都ですから古墳や古社寺も多く、休日は史蹟や博物館巡りに事欠きませんでした。

あるとき、厄払いに大神（おおみわ）神社を訪れた時、神主さんに「どちらの大神さんですか」と問われ、「大分県です」と答えると、「なるほど」という顔をしていました。そういえば当大神神社の『高宮系図』には、豊後大神氏の祖となる良臣―庶幾―諸任までが記録されて

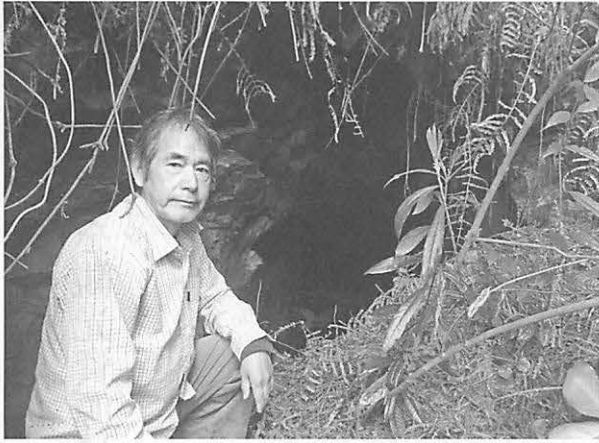
いたのです。

そんなわけで、邪馬台国論争や神社の由来など自分なりの空想にふけておりました。耳目に入ってきた故郷の話題といえ、鶴城高校の甲子園出場や、トトロの里、教育汚職等々でした。

退職後、帰郷して古市愛宕神社（上岡大田）の山裾に住居を新築して夫婦で暮らしています。戦時中この辺には水銀採掘労働者の宿舎が建てられていたので、俗に「水銀」と呼ばれていました。今でも迫田の奥には横穴（坑道）や運び出された採石のボタ山が残っています。また上岡愛宕神社から尾根を登ると二〜三ヶ所に立穴が見られます。当時は軍需産業として水銀鉱区が設けられ、水銀を含む地層は大入島帯（大入島から弥生深田まで）が指定されていたようで、あちこちに試掘の跡が残されて



上岡迫田の生家



迫田の坑道入口にて（大神）



迫田の坑道内部（横穴）



上岡尾根の坑道（縦穴）

おり、工場や飯場の跡も記憶されています。

数年前に佐伯史談会に入会し、研修会や清掃ボランティア等に参加しています。今年はコロナの影響で中断しておりますが、個人的に佐藤会長を案内して中世の城館跡を尋ね山中を徘徊すること幾度、豊薩合戦に羽柴秀長が宿泊した佐伯惟定の居館は何処だったのか、藤堂高虎が宿泊した佐伯惟澄の館は何処だったのか。未だ見当もつきません。

今回は幸いに佐伯惟勝の木戸城に行き当たり、会長が考証を担当しました。このごろ会長自身「頭がボケた」と悔やみ、現地にスケールを忘れたり、カマを失くしたり。また「ダニに喰われた、ヒルに喰われた」と言っており要注意。季節が変わるまで待つしかないでしょう。貴重な文化遺産が観光資源になるよう、誰に期待するのか、自分自身にですよ。